薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・

２０２２年
５月２２日
第１３１号

ユリノキ（モクレン科）

園内、果樹園入口で、背の高い木を見上げると、黄緑色の花弁に橙色の斑が入った美しい花が見られます。北アメリカ東部原産の高木で、明治初期に新宿御苑に播種されました。学名の*Liriodendron tulipifera*は、チューリップ型のユリのような木という意味で、英名はtulip treeです。ユリノキの和名は大正天皇の命名と言われます。アメリカ先住民が、根皮を煎じてマラリヤなどの熱を下げるのに利用したり、根をブドウ酒に浸してリウマチ、関節炎に用いていたようです。また材はカヌー利用したようです。中国には同属のシナユリノキがあり、その樹皮が凹朴皮（オウボクヒ）、根が鵝掌楸根（ガショウシュコン）という生薬となり、どちらも祛風湿、散寒止咳を目的に、咳や関節痛に用います。また鵝掌楸根には強筋骨の薬能もあり、強壮を目的とした薬酒としても用いられます。

イチジク（クワ科）

園内、ひょうたん池の横で、早くも果実が見られます。アラビア半島原産で中国から伝わり、各地で果樹として栽培される落葉樹で、葉や茎を傷をつけると白い乳液を出します。夏に花序が肉質に変態した果実（正しくは偽果）をつけ、食用とします。果実、葉、根が、それぞれ無花果（むかか）、無花果葉、無花果根という生薬になり、いずれも清熱解毒や、健脾、消腫などを目的に利用されます。民間薬としては、白い乳液をイボに塗布したり、駆虫薬として内服するほか、生葉の煎汁を痔疾に、乾燥葉は浴湯料として神経痛に効果があると言われます。なお、無花果の名前の由来は、偽果の内部に花が咲き、外部から花が見えないからで、果実を食べた時のプチプチが花です。